

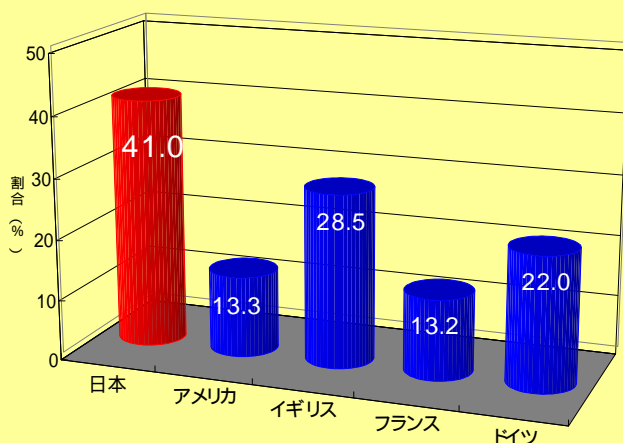
あんしん歩行エリアの整備の背景

交通事故死者数のうち歩行者・自転車利用者の割合が約4割を占め、欧米と比べると高い割合となっている

歩行中の交通事故による死者の約6割は自宅から500m以内で事故に遭っている

その背景の1つとして、我が国の都市部における道路面積率が、欧米と比べ低いことが考えられる

交通事故死者数に占める歩行者・自転車利用者の割合(30日以内死者)



	歩行者	自転車利用者	全死者数	割合
日本	2,835	1,285	10,060	41.0%
アメリカ	4,882	728	42,116	13.3%
イギリス(2000年)	889	131	3,580	28.5%
フランス	822	256	8,160	13.2%
ドイツ	900	635	6,977	22.0%

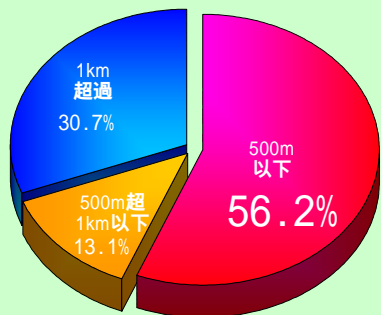
国際道路交通事故データベース(RTAD)による。
事故データはイギリスを除き2001年中のものである。

道路面積率の国際比較

	道路面積率
東京(新宿副都心)	22%
東京(世田谷住宅地)	25%
ニューヨーク(ミッドタウンマンハッタン)	40%
ロンドン(シティ)	33%
パリ(凱旋門周辺)	42%
ハルビン(歴史的な中心部)	39%

国土交通省資料による。
道路面積率:単位面積当たりの道路面積。

歩行中の自宅からの距離別死者数(平成14年中)



	500m以下	500m超1km以下	1km超過	計
死者(人)	1,340	312	732	2,384
割合(%)	56.2	13.1	30.7	100